

教室の外へ

—中島敦「山月記」の授業実践

熊本高等専門学校 道園 達也

一、背景と目的

現在、社会状況の変化に応じて「何を教えるか」という教授者主体の授業から「何ができるようにするのか」という学習者主体の学びへの転換が推進されている。高等学校学習指導要領（平成30年告示）が「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指すのも同様であろう。

国立高等専門学校モデルコアカリキュラム（以下、MCC）は平成24年に試案が提示され、改訂を経て令和5年に最新版が公開された。MCCは「すべての国立高専で学ぶ学生が卒業までに到達すべき最低限の目標水準（ミニマムスタンダード）」を示すとともに、各高専での多様で自律的な教育編成の指針を示すもの¹⁾として策定されている。

MCCにおける国語の「到達目標」は次のとおりである。

人間性の基盤となる言語的・文化的教養を身に付け、自ら進んで効果的かつ対話的なコミュニケーションを実践することで、多様な他者を深く理解し、変化する状況にも

柔軟に対応する言語能力や専門分野に関わる日本語の運用能力の向上を目指す。

加えて六つの小項目が、より具体的な「到達目標」として示されている。MCCに基づいて、今求められているのは高専生の主体的な学びを促す多様な授業実践であろう。

以上の背景を踏まえ、本レポートでは「教室の外へ」と題して熊本高等専門学校（以下、熊本高専）八代キャンパスにおける中島敦「山月記」の授業実践を報告する。まず、一人ひとりがグループワークと発表会を通して「山月記」への理解を深めるという「教室内の学び」を進める。その後、文学理論によって「教室内の学び」を自らの関心の対象につなぐという「教室外の学び」を促す実践である。本レポートを「教室の外へ」と題するゆえんである。

二、授業と評価の方法

MCCの「自ら進んで効果的かつ対話的なコミュニケーションを実践すること」を取り入れた授業で検討を要するのは評価方法であろう。

熊本高専八代キャンパスでは国語科教員（常勤2名）で話し合い、令和4年度から定期試験期間中の筆記試験を廃止した。コロナ禍においてオンラインによる授業と試験をおこなう中で授業と評価の方法を見直し、文章・資料作成や口頭発表、グループでの話し合いなどの「実践」を重視する授業では筆記試験による定量評価よりも形成的評価の方が適切であると考えたからである。熊本高専の学生は例年約6割が就職、残り4割が進学（専攻科・大学編入学）する。いずれも大学入学共通テストを受けることはない。こうした学生のキャリアを考え、以前から「実践」重視の授業をおこなっていたが、コロナ禍を経て形成的評価を主に採用することにしたのである。

筆記試験を実施しないことによって「実践」重視の授業計画が立てやすくなった。ただし、初年次の導入教育において重点的に、また、その後も折に触れて伝える必要があるのは国語で育成される「日本語の運用能力」が卒業後も長く求められるということである。「実践」重視

の授業をおこなう上で特に欠かせないのは、教員と学生が卒業後を視野に入れて教室で学ぶ目的を共有することである。

三、「山月記」の授業実践

「山月記」は本科2年「国語Ⅱ」（必修2単位・通年30回／1コマ90分）で取り上げた。熊本高専八代キャンパスには機械知能システム工学科、建築社会デザイン工学科、生物化学システム工学科の3学科がある。令和5年度本科2年の学生数は各学科とも43名である。

「山月記」の授業は年度末の第28～30回の計3回を当て、クラス別に次のような内容と配当時間を実施した。なお、毎回の授業冒頭20分程度でおこなっている語彙力小テストの記載は省略した。

回	内容（配当時間）
28回	① 中島敦略年譜（25分） ② 朗読を聞く（25分） ③ グループ分けと担当パートの内容確認（20分）
29回	④ 「物語と中間性」の解説（15分） ⑤ 特別課題の予告（5分） ⑥ グループワーク（50分）
30回	⑦ 発表会（50分） ⑧ 振り返り（20分） ⑨ 特別課題（授業時間外）

① 中島敦略年譜

中島敦の経歴について写真資料とともに家庭環境、父親の転勤に伴う転校の繰り返し、日本統治下の朝鮮半島での生活、学歴、宿痾の喘息、横浜高等女学校での教員生活と南洋庁への転職、文学活動等の紹介をおこなった。

② 朗読を聞く

本文はルビを多めに付けた資料を作成・配布し、朗読音声はYouTube【公式】窪田等の世界【https://www.youtube.com/@hitoshi_kubota_official】を用いた。学生とともに朗読に耳を傾けながら、学生の様子を見ることができた。

また、参考として「青空文庫」(<https://www.azora.scri.jp>)を紹介した。

③ グループ分けと担当パートの内容確認

「山月記」を五つのパートに分けた。そして、各グループが4～5名になるように、計10グループをくじ引きで決め、各パートを2グループが担当するようにした。グループワークで担当パートを理解し、発表会で同じパートを担当する別グループの説明や第1パートから第5パートまでの説明を聞くことによって「山月記」を理解できるよう配慮した。各パートは次のように分けた。詩は一つの段落と見なし、全21段落とした。

- 第1パート…第1段落
- 第2パート…第2～5段落
- 第3パート…第6～13段落

第4パート…第14～15段落

第5パート…第16～21段落

くじ引きによってグループを決めた後、各自担当パートの内容確認をおこなった。

④ 「物語と中間性」の解説

「物語と中間性」の観点で次のような解説をおこなった。

「人虎伝」と「山月記」は、いずれも李徴が虎になる物語である。そのことが物語世界内の事実として共通している。一方、相違しているのは李徴の内面描写である。「山月記」は「臆病な自尊心／尊大な羞恥心」に代表される李徴の内面を描写することで「人虎伝」に対して独自性がある。つまり「山月記」は、「人虎伝」の物語世界内の事実を引用して李徴の内面を描写した物語であるといえる。

その李徴の内面は、李徴が「虎と成り果てた今」、袁蓼という聞き手を得て、かろうじて「人語」を操ることができるという虎と人の中間状態にあるために語られる。「山月記」の物語は李徴の状態に見られる中間性と内面描写が相互に関連し合うことで生成されているのである。

⑤ 特別課題の予告

次いで特別課題を予告し、「山月記」と同じように、ただし変身に限らず主人公や登場人物が、対立しあるいは相違する二つのものの中にある物語として次の作品に触れた。『鬼滅の

刃』(竈門禰豆子)、『呪術廻戦』(虎杖悠仁)、『もののけ姫』(サン)、いずれも人物の中間性によって魅力的な物語である。

⑥グループワーク

発表会に向けてグループで準備をおこなった。発表会は「担当するパートの内容を分かりやすく、魅力的に伝える」ことを目的とし、「本文からの引用を必ず含めること」「メンバー全員が発言すること」「時間は5分以内」の三つを留意点として提示した。また、インターネットは積極的に活用するよう伝えた。身近なツールを用いることで、主体的な調べ活動を促すことができる。

⑦発表会

発表会の冒頭で、今回は時間を超過しても減点はしない、準備したことをメンバーで分担して発表してほしいと伝えた。人前で話すのが苦手な学生でも点数評価と連帯責任という重圧を、できるだけ感じることなく経験を積んでほしいと考えたからである。各グループの発表は、いずれも工夫され聞き応えがあった。スマホでBGMを流しながら演劇風に発表したグループ、「人虎伝」やカフカの『変身』と比較をおこない、中間性の観点での考察も交えて発表したグループもあった。出席者は全員が発言してくれた。①～⑥の配点は10点、一連の作業への参加で満点とした。欠席者には個別に対応した。

⑧振り返り

振り返りは「山月記」を含めた後期の授業内容に関しておこない、WebClassを利用した。WebClassは国立高等専門学校機構で導入されているLMS (Learning Management System) である。学生は、いつものようにスマホ等を用いて回答していた。配点は10点、全項目に回答することで満点とした。

「山月記」に関して回答を求めたのは理解度とお勧め度、および感想である。

理解度は高く、図1に示したとおり「5」(十分に理解できた)から「3」(理解できた)の回答が計99%であった。自己評価ではあるが、自分なりに理解できたと感じられたようである。お勧め度も高く、図2に示したように「5」から「3」の回答が計96%であった。「1」の回答者は理解度も「1」であったので、理解できなければお勧めはできないということであろう。誠実な回答だと思う。

感想は多様で読むのが楽しかった。いくつか紹介する。表記は原文のままとした。

・山月記の主人公である李徴の性格や思考回路

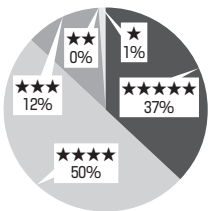


図1 理解度

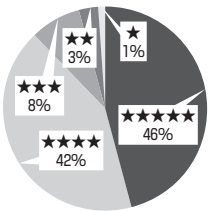


図2 お勧め度

が自分に似ている部分が沢山あってなかなか耳が痛いな、と思いました。でも、お陰で自分を客観的に見ることができた気がするので、度々読み返して戒めになりたいです。

・原作の人虎伝と内容が改変されすぎていて気に食わなかったが原作が大分残酷な為仕方ないのかなあと思った。

・文章の中で段々と意識が虎に近づいていく李徴の描写に感動しました。(中略) また、私は友人の勧めで「変身」も事前に読んでいたので、山月記との相違点に着目でき、より一層楽しめて面白かったです。

・元が中国の文学であることから登場人物の名前が独特で知る前まではこの文学は難しいのではないかという偏見を持っていたが、読んでみると案外わかりやすく、登場人物の心情の変化、文学作品における中間性にも着目しながら読解できて、とても面白かった。

⑨特別課題

特別課題の設問は「物語と中間性」の観点で中島敦「山月記」および他の物語(小説、マンガ、アニメその他)について説明しなさい。」とした。WebClassを利用し、主体性に期待して回答は任意、締切は休日を挟んで月曜17時とし、5点満点で採点した。回答者は39名であった。

学生の回答で「他の物語」として左表のような物語、および人物が挙げられた。中には観点

がややずれているものもあるように思うが、学生が自らの関心の対象につないで回答した具体例として、そのまま紹介しておきたい。

四、理論の効用

「物語と中間性」の観点はユリー・ロトマンの文学理論を参照した。ただし、授業では言及していない。ロトマンによれば「二つの相補的な小集合に分けられたある種の意味論的な場」の「境界線」が「浸透可能になる」のは「行動者としての主人公」の機能による⁽²⁾。つまり、「境界線」を越えるのが「主人公」なのである。「山月記」の李徴は人と虎の間にある「境界線」を越えることで「行動者としての主人公」であった。そのような李徴の機能に着目して提示したのが「物語と中間性」の観点である。

理論の効用について、ジョナサン・カラーは文学をはじめ人類学から社会学まで多様な学問領域の「各著作はそれぞれの分野で行われている議論としっかり結びついてはいるが、そこにある視野や論点がこれらの学問分野を研究していない人々にとっても示唆的であったり、生産的であったりするために、「理論」となるのである」と述べている⁽³⁾。特別課題の回答に見られるように、文学理論の観点を用いることは工学を学ぶ高専生にとっても教室内の学びをもって、主体的に「教室の外へ」越えてゆくことを促す可能性があるのではないだろうか。

媒体	作品／登場人物
テレビ番組	円谷プロダクション『ウルトラマン』／ウルトラマン
漫画	たかしげ宙、皆川亮二『スプリガン』／御神苗優
漫画	石田スイ『東京喰種』／金木研
漫画	藤田和日郎『うしおととら』／蒼月潮
映画	新海誠『君の名は。』／瀧と三葉
漫画	真島ヒロ『FAIRY TAIL』／ナツ・ドラグニル
漫画	諫山創『進撃の巨人』／エレン・イエーガー
漫画	鳥山明『ドラゴンボール』／孫悟空とピッコロ、合体ザマス
小説	ロバート・ルイス・ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』
漫画	橋本悠『2.5次元の誘惑』／天乃リリサ
漫画	青山剛昌『名探偵コナン』／コナン
映画	宮崎駿『千と千尋の神隠し』／ハク
漫画	尾田栄一郎『ONE PIECE』／チョッパー
小説	J・K・ローリング『ハリー・ポッター』／ゴブリン
ゲーム	miHoYo『原神』／旅人
漫画	赤坂アカ、横槍メンゴ『推しの子』／アイ
小説	多崎礼『レーエンデ国物語』／ユリア
映画	ティム・バートン『チャーリーとチョコレート工場』／ウォンカ
漫画	遠藤達哉『SPY×FAMILY』／ロイドとアーニャ、ヨル
漫画	ナガノ『ちいかわ』／鎧さんとモモンガ
漫画	富樫義博『HUNTER×HUNTER』／キメラ=アント
小説	百田尚樹『永遠の0』／宮部久蔵
映画	ゲーリー・トゥルースデイル、カーク・ワイズ『美女と野獣』
小説	フランツ・カフカ『変身』／グレゴール・ザムザ
映画	デヴィッド・イエーツ『ファンタスティック・ビースト』／ニュート・スキャマnder
小説	村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』／僕

特別課題の回答一覧

※複数の媒体で発表されている作品については、代表的な媒体によるものを挙げた。

- (1) 国立高等専門学校機構ホームページ「モデルコアカリキュラム」(https://www.kosen-k.go.jp/about/profile/main_super_kosen.html)
- (2) Yu・M・ロトマン『文学理論と構造主義―テキストへの記号論的アプローチ―』磯谷孝訳（勁草書房 一九七八・二）pp. 256～257
- (3) ジョナサン・カラー『「1冊でわかる」文学理論』荒木映子・富山太佳夫訳（岩波書店、二〇〇三・九）p. 5